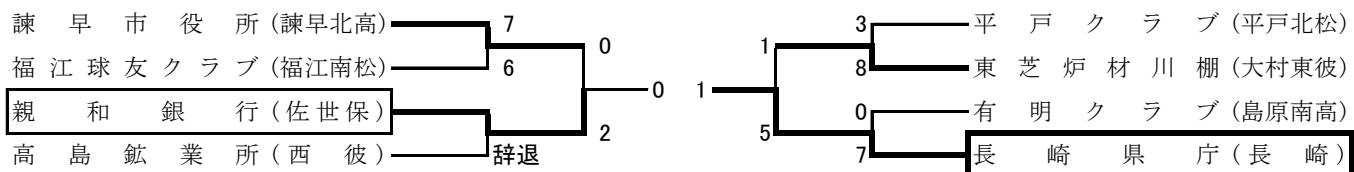


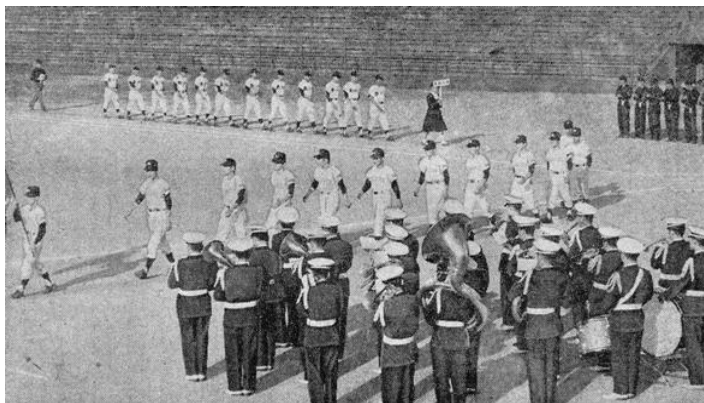
14年ぶりに復活した軟式で8チームの頂点は長崎県庁

第16回長崎県下軟式野球選手権大会	会期	昭和41年11月5日(土)～6日(日)決勝は11月16日(水)
	会場	長崎市営大橋球場



1966年の県軟式野球界の王座をかけた第16回県下軟式野球選手権大会は5日、大橋球場に県下各地から選ばれた精鋭7チーム(高島鋳業所は落盤事故で出場辞退)が参加して二日間にわたる大会の幕をあけた。

今年は第2回(S27年)以来14年ぶりに軟球を使用しての大会で過去5連勝している日本冷熱工業や、10年連続出場の大村アポロが姿を消し、参加チームの中に新顔が目立つ。開会式は午前8時40分からあり県警音楽隊の吹奏する勇壮なマーチによって、国旗、大会旗、長崎新聞社旗、県野連盟旗を先頭に選手団が入場。木下大会委員長(長崎新聞社事業部長)の開会宣言続き脇山大会会長(同社代表取締役)が「本大会も年々発展の一途をたどって第16回大会を迎えることは県野連をはじめ関係各位のご協力によるものであり謝意を表します。三年後の長崎国体を控えスポーツ振興が叫ばれている折から、本大会を有意義なものにするため皆さんは堂々とプレーして欲しい」とあいさつ。次いで県知事(代理・荒木企画調整課長)、



長崎市長(代理・川谷体育課長)がお祝いのことばを述べた。全選手を代表し宇戸直善主将(長崎県庁)が選手宣誓を行なった開会式を終った。

(昭和41年11月6日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

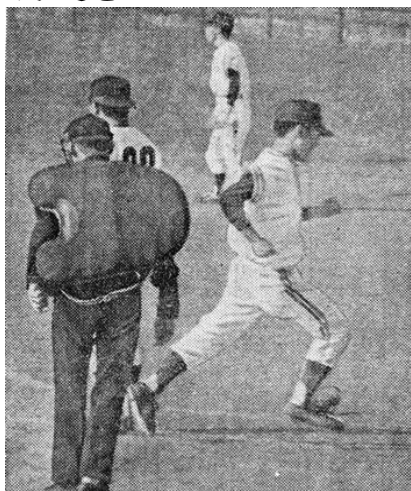
福江、失策で自滅

【一回戦】=第1試合=	振球犠盗併残失	
福江球友クラブ	002 001 300	6 4 6 1 4 0 7 7
諫早市役所	040 002 01X	7 2 4 0 3 0 10 2
		2時間23分

【二】永江、西山、松本、平山 (審判)岩永、中田、森、佐方

【評】諫早市役所は勝つことは勝ったが「やっと勝った」という言葉がぴったりの試合だった。二回裏永江の二塁打を足場に二つの四球でつかんだ二死満塁に西山の内野安打、田淵の中前タイムリー、さらには一塁失もあって4点を先行したが、三回に四球の走者を二三塁に置いて田中の適時打で2点。六回には植松の内野安打で1点をかえされ、その裏に西山、松本の長短打と敵失で再び3点差としたのも束の間、七回裏に3点をかえされる始末。八回松本の二塁打で決勝点をつかんだが、諫早市役所としてほめられるものではなかった。

福江球友クラブはエラー7個を記録し、それがいずれも失点につながっており自滅といえる。しかし4-0から3点をかえして追い上げモードの時に、一塁失が響いて2点を失ったときガクッとくるものだが、二つの内野安打と四球で一死満塁とし、貞方の右犠飛と平山の二塁打で同点に追いついた粘り強さは賞賛される。



先取点 二回裏、諫早市役所の西山の内野安打で永江が三塁から生還し先取点をあげる

【福江球友クラブ】	打安点
⑧2 布袋 重夫	4 1 0
⑥ 佐々木慎太郎	4 2 0
① 田中 範彰	4 1 2
⑤ 貞方 泰則	3 1 1
② 平山 昌一	3 1 2
9 川端 康成	1 0 0
⑨8 大木 忠清	5 0 0
⑦ 植松	4 1 1
③ 才津 浩章	1 0 0
3 浜辺 宏	3 1 0
④ 才津 勝	2 1 0
R4 森 久徳	1 0 0
	35 9 6

【諫早市役所】	打安点
⑥4 西山 勲	5 2 1
⑦ 田淵 康德	5 2 2
① 増輪 忠昭	3 0 0
③ 松本 守	5 2 2
④6 永江 則光	5 2 0
⑨ 山崎 蔵男	4 0 0
⑧ 前田 竜三	4 1 0
② 清水 征二	3 0 0
⑤ 中尾 誠司	2 0 0

36 9 5

〈大会二日前の長崎新聞に掲載されたチーム紹介より一部を抜粋〉

福江球友クラブ…選手のほとんどが五島高校野球部の出身である。会社、商店、官庁から集った「メシより野球が好き」という青年ばかり。打線はこれといったロングヒッターはいないが、トップからラストまで徹底した短打主義の持ち主で、打線には切れ目がない。 —諫早市役所は後掲—

【東芝炉材川棚】打安点

⑦ 矢ヶ部敏征	4	3	1
⑤ 林 淳之祐	4	0	0
② 青木 忠	5	2	1
① 井手 泰弘	5	2	0
③ 清利 福正	3	1	2
⑨ 大野	4	0	0
④ 江越 彰	3	1	0
⑥ 今里 幸洋	4	2	2
⑧ 畑中 健吾	1	0	0
H8 福島 陸男	3	0	0

東芝炉材 逆転勝ち

【一回戦】=第2試合= 振球犠盗併残失 2時間7分

東芝炉材川棚	200	210	102	8	4	9	2	4	0	4	0
平戸クラブ	021	000	000	3	7	1	0	0	0	3	4

(審判) 杉山、山下、平井、深堀

【本】山口 【三】矢ヶ部、井手2、烏山 【二】矢ヶ部、清利、山口

【評】3-2と1点のリードを許した東芝炉材は四回二つの四球と犠牲バントで一死二三塁のチャンスをつかみ今里の右前テキサスと矢ヶ部の右犠飛で逆転した。その後も平戸クの山口を攻め五回三塁打の井手が清利の一ゴロでかえり七回には青木、清利の長短打で小刻みながら得点を重ねた。

平戸クは二回四球の走者を一塁におき山口の右中間ランニングホームーで同点とした後、三回は安打の江田を烏山の三塁打でかえして一旦はリードしたがこれが精一杯。その後はカーブを主体としたピッチングに切り替えられた井手に押さえられてしまった。

平戸クにとって新鋭大畑が立ち上がり四球を間にはさんで矢ヶ部、青木に長短打を喫し、一死も取れずに降板したのが誤算だったが、代わった山口も制球に苦しみ、カウントを整えようとするところを狙い打たれた。

【平戸クラブ】打安点

⑤ 江田 徹	4	1	0
⑥ 烏山 勇	4	1	1
③ 堤 充治	4	0	0
⑨ 柳本 一郎	3	0	0
⑦17 山口 正明	4	3	2
⑦1 大畑 達男	3	0	0
H 大塚喜久雄	1	0	0
② 作元 公之	1	0	0
2 正木 公	2	0	0
⑧ 高本 健治	3	0	0
④ 木山 光弘	2	0	0
H4 桑山 正則	1	0	0

<大会二日前の長崎新聞に掲載されたチーム紹介より一部を抜粋>

東芝炉材…十年連続出場の大村アポロにかわっての出場。この年の天皇賜杯全日本大会に初出場したほどの強豪だが、県選手権大会には縁がなく初出場。
平戸クラブ…旧名マルヤマ醤油クラブ。チーム結成年の第12回選手権大会に出場し、今回が三度目の出場。この年の県民体育祭でも一昨年に続いて三位。

32 5 3

県庁打線

【一回戦】=第3試合= 振球犠盗併残失 1時間24分

長崎県庁	001	114	0	7	4	3	1	1	0	6	0
有明クラブ	000	000	0	0	6	1	0	0	0	4	2

(審判) 松尾、清水水谷、井上

(7回コールドゲーム) 【本】佐々野 【二】井口2、町田、伊達

【評】有明の金子が県庁打線をどうさばくかに興味がかけていた。と言うのはこの両者は全日本準硬式選手権県予選で顔が合い、県庁が勝ちました。しかしこの日の金子は球が高めに浮いていた。それでも三回までは1点を失いはしたが無難なピッチングだった。ところが四回、佐々野に1-1から内角高めに絶好球を提して左翼席に叩き込まれ、五回は四球後に井口の中越二塁打で失点した。

こうなると県庁のペース。勢いに乗った県庁は六回安打を集めて4点を加え有明クの息の根を止めた。

有明クラブは打線も宇戸のうまいピッチングに手が出ずチャンスといえ加藤、伊達の長短打で迎えた五回の二死二三塁だけ。これも竹之内が三振に打ち取られて1点も報えずコールドゲームに甘んじた。

【長崎県庁】打安点

⑥1 井口 一彦	4	2	3
⑨ 本田 崇	3	0	0
H 越本 博	1	0	0
3 中村 豊	0	0	0
⑧ 町田 昇	4	1	0
③7 佐々野泰臣	4	1	1
⑤ 小森 文人	4	3	0
④ 白浜 真	4	0	0
①9 宇戸 直善	4	1	0
⑦9 野口 博	1	1	1
6 中川 繁森	0	0	0
② 今村 視明	2	1	0

30 10 5

【有明クラブ】打安点

③ 松本 輝之	3	0	0
① 金子 一雄	2	0	0
⑥ 馬場 顕亮	3	0	0
⑤ 長野 透	3	0	0
④ 奥村 秀温	3	0	0
⑧ 松本 真	3	0	0
⑦ 加藤 義正	3	1	0
② 伊達 秋信	1	1	0
⑨ 竹之内和威	2	0	0

23 2 0

<大会二日前の長崎新聞に掲載されたチーム紹介より一部を抜粋>

長崎県庁…第7回大会以来9年ぶりの出場。当時のエース宇戸が依然健在。対馬時代から通算すると15年目の超ベテラン。当時よりスピードは無くなったが相変わらず打者との駆け引きがうまい。投手陣には県庁と地区代表を争った農協連の井口を補強。今年海星を卒業したばかりでスピードはあるが守備強化の意味で内野に起用されるだろう。

有明町クラブ…チーム結成は35年というから今年で7年目。有明町役場や町内の小中学校職員らで編成されたクラブチーム。最近10試合の戦績は7勝3敗で島原南高では、一度も負けておらず県大会で喫した3敗も僅差のゲームばかり。エースの金子は身体は小さいがその速球に威力があり2試合は全力投球しても大丈夫というファイトマン。

大会第2日は大橋球場でベスト4による準決勝、決勝の3試合を行なう予定だったが、準決勝2試合を終わったところで雨がひどく決勝戦は延期となった。準決勝第1試合は好機に適時打の出た親和銀行が2-0で諫早市役所を破り、第2

試合は中盤から雨中戦となったが、佐々野の2本塁打などで5点を挙げた長崎県庁が、東芝炉材の反撃を1点に抑えた。
(昭和41年11月6日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

親銀ソツなく得点

諫早市役所 投打の好調生かせず

【準決勝】 1時間55分 振球犠盗併残失

諫早市役所	000 000 000	0	3	4	0	0	0	7	3
親和銀行	001 010 00X	2	3	3	1	2	2	6	1

【三】山崎【二】清水、増輪
(審判)岩永、宮口、井上、水谷

【評】諫早市役所の増輪投手は前日の福江戦では乱調だったが、この日はコントロール良く低めに球を集めていた。このため親和銀行の打棒は伸びず3安打を記録したのみ。しかしその少ない安打を得点に結びつけた。

三回の親銀は四球の野口が永野二塁ゴロで二進、吉原の右翼後方を襲った飛球は山崎の美技に阻まれたが、続く松尾が中堅へ抜けるゴロの安打を放って先取点を挙げた。五回には先頭の永野が安打、バントと遊ゴロ失の一三塁に田中の三ゴロで永野が飛び出して刺されたが、渡辺が右前に流し打って松尾を迎え入れた。

この点、諫早市役所は親和銀行を上回る5安打を放ちながら拙い攻撃で2点の負担をはね返せなかった。三回、山崎が右越え三塁打したが前田の右飛でスタートのカンが悪く還れず、九回渡辺に代わった岩下から代打の田島が安打を奪いながら永江の右飛でとびだして併殺。その後で松本の四球と増輪の左線二塁打がでるといった具合。

親和銀行の渡辺は指を痛めていたが、九回二死二三塁のピンチに再び登板し当たっている山崎と勝負を避けて、前田を三振に打ち取ったあたり賢明のピッチングだった。

【諫早市役所】打安点

④	西山 勲	3	0	0
⑦	田淵 康徳	2	0	0
H	田島 秋吉	1	1	0
⑥	永江 則光	4	0	0
③	松本 守	3	0	0
①	増輪 忠昭	4	1	0
⑨	山崎 蔵男	3	2	0
⑧	前田 竜三	4	0	0
②	清水 征二	3	1	0
⑤	中尾 誠司	3	0	0
		30	5	0

【親和銀行】打安点

⑤	吉原 昭信	3	0	0
②	松尾 敏正	4	1	1
⑥	田中 幸穂	4	0	0
①91	渡辺 耐二	4	1	1
③	曾木 毅	3	0	0
⑧	金氏 孝弘	2	0	0
8	坂本 信吾	0	0	0
⑨	西田 弘	2	0	0
9	永井 洋蔵	1	0	0
19	岩下 猛	0	0	0
⑦	野口 治信	2	0	0
④	永野 繁信	3	1	0
		28	3	2

〈大会二日前の長崎新聞に掲載されたチーム紹介より一部を抜粋〉

諫早市役所…チームワークを身上としており他チームから補強はしていない。好守の中心であるエースの増輪は164cm、58kgの小柄で、投手は諫早市役所に入ってからというから経験は浅いが、難のあるコントロールに進歩を見せているので、決め球のシュートやカーブが生きてきた。地区予選でも2試合に完封勝ちしている。

親和銀行…エース渡辺は肩を壊しアンダーハンドに切りかえている。スピードはないがシュート、スローカーブを武器にコーナーワークは抜群。県下高校野球界の本格派投手として注目された佐世保南の岩下が今春入社したが、シーズン当初に肩をこわし未だに精彩がない。投手陣をカバーする内外野の守備は堅く捕手の松尾も強肩。打線は速球には強いが変化球投手には手もなくひねられるケースが多かった。2年ぶり2回目の出場。

【県庁】打安点	【東芝】打安点
⑥井口 4 1 1	⑦1 矢ケ部 4 0 0
⑦野口 2 0 1	⑤ 林 4 0 0
⑧町田 3 1 0	②青木 3 1 0
③佐々野 4 2 3	①7 井手 4 2 0
⑤小森 4 0 0	③清利 3 0 0
④白浜 2 0 0	⑧須箱 3 2 1
H4 越本 2 1 0	④江越 4 0 0
①宇戸 3 0 0	⑨大野 4 1 0
②今村 4 0 0	⑥今里 4 0 0
⑨本田 2 0 0	33 6 1
20 5 5	

佐々野が2本塁打 東芝炉材 投手起用の誤算で自滅

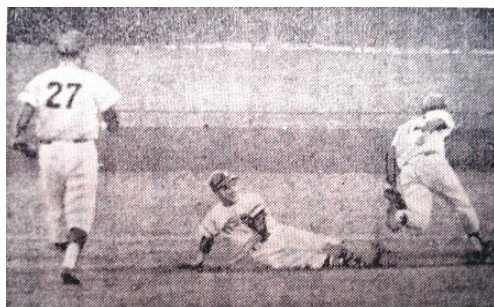
【準決勝】 1時間54分 振球犠盗併残失 (審判)松尾、清水

長崎県庁	000 112 100	5	2	6	1	1	0	5	2
東芝炉材川棚	000 001 000	1	5	3	0	4	1	7	2

【評】佐々野の2発が効いた。三回までは県庁が押され気味だったが、四回二死後0-2から井出がカウントを整えようとして投じた肩口からのカーブを左翼席にソロ弾。また六回には四球の町田を一塁に置いて、0-1からの内角直球を再び左翼席ぎりぎり一杯に叩き込んだ。直球にもスピードは無かったとはいえ、軽くミートしただけで左翼席に持っていく力は大きかったもの。前日の1本と合わせて大会3ホームーに2打席連続は大会新記録。

県庁はこのほか五回にも井口のタイムリーで、七回には一死満塁から手堅くスクイズで加点して安全圏に逃げ込んだが、東芝は井手に代わった矢ケ部が好投しただけに、早めに井手に代えておけば傷口を大きくしないうですんだろう。

県庁の宇戸もこの日は球が走らず好調といえなかったが、味方のリードで余裕を持ち、六回に須箱の好打で1点を与えただけの完投をした。



6回裏東芝炉材の二塁走者須箱、宇戸の牽制球に二三塁間で狭殺。タッチするのは小森

雨天順延していた決勝戦は、11月16日(水)午後1時30分から大橋球場で行なわれ、長崎県庁が六回に町田の殊勲打であげた1点を宇戸の好投で守りきり、親和

銀行を封じて初優勝を遂げた。
(昭和41年11月17日付けの長崎新聞より記事と写真は抜粋)

長崎県庁が初優勝 親和銀行、好機を生かせず

宇戸1点を守る 町田が決勝の二塁打

【決勝戦】	1時間38分	振球犠盗併残失(審判)	米崎、岩永、平井、三崎
親和銀行	000 000 000	0	1 2 1 2 0 3 0
長崎県庁	000 001 00X	1	5 5 1 0 0 4 1

【親和】	打安点	【県庁】	打安点
⑤吉原	3 0 0	⑨本田	2 0 0
②松尾	4 0 0	④白浜	4 0 0
⑥田中	4 0 0	⑧町田	2 1 0
①渡辺	2 0 0	⑦③佐々野	3 0 0
③曾木	3 0 0	⑤小森	3 0 0
⑧永井	2 0 0	①宇戸	3 0 0
⑨金氏	2 0 0	⑥中川	1 0 0
H岩下	1 0 0	6井口	2 0 0
9西田	0 0 0	②今村	2 0 0
⑦野口	3 0 0	③中村	2 1 0
④永野	3 1 0	R7野口	0 0 0
	27 1 0		24 2 1

【評】親和銀行の渡辺は外角いっぱいに来る切れのよいカーブが効果的。しかも直球は沈むため県庁の各打者はミートポイントがつかめず、内野ゴロがほとんど。五回まで四球の走者を三人出ただけ。これに対する県庁の宇戸も立ち上がりコントロールに苦しんだが、中盤からはコーナーいっぱいを使ううまいピッチングで二回に四球走者二人を出したのみという優勝戦にふさわしい緊迫したゲームとなった。

両軍を通じて初安打は六回一死後に永野の左中間二塁打。親和銀行にとって二度目のチャンスだったが、後続の吉原、松尾が遊撃手井口の好フィールディングによって阻まれ、ものにできなかったのに対し、その裏県庁は先頭の中村が左翼フェンスにワンバウンドで達する安打。本田が手堅く送って初めて得点圏に走者を進めると、二死後に町田が2-3から右中間に二塁打して代走の野口を迎え入れた。町田への渡辺の投球は真ん中やや外角寄りの直球。バットの先の方に当たったがうまく持っていかけた。県庁が放った安打はこの2本だけであり、わずか一回のチャンスを得点に結びつけたあたり勝負強さがうかがえたが、渡辺にとってもこれが致命傷となったのだからかえすがえすも残念だったろう。

それでも親和銀行は最終回に先頭の永野が三ゴロ悪送球に生き、バントで三進の同点機を迎えたが、松尾が0-2から一飛。田中も三ゴロに倒れた。親銀にとっていい当たりが野手の正面に飛ぶ不運もあったが、惜しまれるのは二回二死一二塁からダブルスチールに成功したとき、三塁手が二塁へ送球する間に三走の渡辺が本塁を狙って刺された暴走。宇戸が制球に苦しみ多少は動揺していただけにこのプレーは悔やまれる。



【個人表彰】

◇最優秀選手賞=宇戸直善(県庁)◇首位打者賞=井手泰弘(東芝炉材) 2試合9打数4安打10塁打 ◇打撃賞=矢ヶ部泰臣(県庁) ◇敢闘賞=渡辺耐二(親銀)、松尾敏正(親銀)町田昇(県庁)◇勝利監督賞=中村豊(県庁)

長崎県庁・中村監督の話

この大会に優勝でき、大変うれしい。みんながよくやってくれた。決勝戦ではエース宇戸が仕事が忙しく二日間徹夜で、投げられるかと心配していたが、よく投げてくれた。打撃の方も4番の佐々野が一二回戦で3ホームーの大会新記録を作るなど活躍してくれた。来年も優勝できるようがんばりたい。

天皇賜杯第21回全日本軟式野球大会【51チーム】

(S41. 8. 18~・奈良県奈良市ほか)

東芝炉材川棚【一】 4-2 石川町役場(福島)
" 【二】 5-0 関ヶ原石材(岐阜)

<天皇賜杯大会県予選会=準決勝以上：佐世保野球場>

東芝炉材川棚(大村東彼)	2	棄権
有明クラブ(島原南高)	1	
城栄クラブ(長崎)	2	
九州電気工事(佐世保)	0	

第21回大分国体【28チーム】10. 24~

藤岡石油店【一】 0-1 東芝三重工場(三重)

高松宮賜杯第10回全日本【埼玉県】は不出場

常陸宮賜杯第2回全日本準硬式野球大会【50チーム】

(S41. 6. 6~・大阪市、八尾市)

西肥自動車【二】 3-11 日立電鉄(茨城)

<同大会の県予選会=島原市宮球場>

長崎県庁(長崎)	1	0
有明クラブ(島原南高)	0	
大村航空隊(大村東彼)	0	
佐世保重工業(佐世保)	5	
西肥自動車(大村東彼)	3	
高島鋳業所(西彼)	1	
藤岡石油店(長崎)	6	
船越クラブ(諫早北高)	0	

第18回県民体育大会 優勝：長崎市